
わがままの理由

雄

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

わがままの理由

【Nコード】

N7146C

【作者名】

雄

【あらすじ】

彼女が家に来た。初めて言った彼女のわがままの理由に、俺は気付けなかった。

めずらしく彼女が家に来た。いつもと雰囲気が違う洋服を着て。

そこが変わっただけで彼女はいつもと変わらず、気さくな笑顔を見せた。

彼女は来るなりソファの右側に座った。（そこは彼女の特等席だから）

俺はコーヒーをふたり分ガラステーブルに置いて、テレビに目を向けた。

「ちゃんと片付いてんね」

「一応な」

「O型のくせに几帳面」

「いいじゃねえか別に」

“O型のくせに几帳面”という言葉に心臓が高鳴った。

そしてあまりに彼女が美しい表情をしたから、彼女を見つめることができなかった。

コーヒーカップとスプーンがぶつかる音が頭の片隅で聞こえた。

耳を澄ませば、昨日の夜から降っている雨の音も聞こえた。

午後になって雨足は増して、彼女はこの雨の中俺の家に来たんだと思つと胸が齒痒くなった。

「なーんか暇」

「なに？どーすんの」

「海行きたいなあ、海！」

「うみ？雨降ってるじゃねえか」

「いいじゃん。車あるんだし」

「しかも夏でもねえのに」

「夏の間じゃないのも素敵じゃんか」

「ぜってえ嫌」

たばこに火をつけると、怪訝そうな顔をこちらに向けた。

それと同時に彼女のねだり攻撃が始まった。正直鬱陶しい。

なんで海なんだ？なんで今なんだ？イベントがあるわけでもないのに。

大体、俺の彼女はこんなにわがままじゃなかった。

むしろ初めてだ。こんなわがままな彼女を見るのは。

身体全体で疑問を感じながらも、平静を装って彼女に聞いてみた。

「なんで海？」

「行きたいから」

「なんで今？」

「行きたくなつたから」

「わがまま」

「いいじゃん」

「なんでこんないきなりわがままになつたんだよ」

「・・・どうゆうこと?」

「今までお前、あんまりわがままとか言わなかつたじゃん」

「いいじゃない、たまには」

長い間ずっと一緒にいるからじゃない。確かに彼女の表情は変わった。

これは小さな子供にでも分かるような変化だった。

彼女はまた声を張り上げて、「行こうよ!」と俺の腕をとった。それでも俺は気が乗らなかつたので、ソファから動かなかつた。

「ねえ、行こうって」

「今度でいいじゃねえか」

「やだ。今がいい」

「しつこいぞ」

「お願いだから」

「いやだっつの」

「・・・だつたら、」

「あ?」

「だつたら、あの女と別れて」

たばこの灰が、俺の指に落ちた。

(なぜか熱さは感じない) (感じるのは、彼女の痛いほどの我慢)

(後書き)

彼は浮気をしていてたんですね。

彼女の我慢は泣くこととか怒りとかですね。

コメント、批評など頂けたら幸いです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7146c/>

わがままの理由

2010年12月16日14時35分発行